

魔法のダイアリー 活動報告書

報告者氏名：熊谷真紀

所属：盛岡市立米内小学校

記録日：2019年2月6日

キーワード：コミュニケーション 学習支援

【対象児の情報】

・学年

2年生 Yさん 7歳 特別支援（自閉症・情緒障がい）学級在籍

・障がいと困難の内容

○自分の気持ちを表現することについての困難

○見通しがもてないことによる学習への取り組みの困難



【活動目的】

・当初のねらい

○安心して学習に向かうことができるようにする。

○言語と表現を増やしてコミュニケーションや学習を円滑にする。

・実施期間

2018年5月～2019年1月

・実施者

熊谷真紀

・実施者と対象児の関係

担任

【活動内容と対象児の変化】

1.対象児の事前の状況

《行動の様子》

- ・行動が衝動的突発的で時折誘導や指示に激しく抵抗を見せる。説明や励ましの助言をして促すと、行動に移ることができる。
- ・自分の要求を表そうとするが、言語で伝えきれずに、意思の疎通が難しい場面が多い。
- ・興味のあることには意欲を示し、活動や学習に参加するが、そうでないものについては関係ないことを勝手に始めようとする。
- ・集団行動に馴染めず、指示に従えない場合が多いが、自分もできると感じたものは、他の児童の動きを見て真似ることができる。

《コミュニケーションの様子》

- ・明るく友好的な性格で、習得している言語を表出して積極的に関わろうとする。
- ・学校や家庭で経験したことを想起して「～したねえ」と教師に伝えることが多くなった。
- ・語彙が増え、2, 3語の単語や接続詞を組み合わせた簡単な文章表現での意思表示ができるようになってきている。

《学習の様子》

- ・ 学習予定表の教科や内容を見て、自分なりの判断で「できない」「難しい」と拒否してしまう。
- ・ 「～だからやめようね」という表現で不安やこだわりの理由を相手に伝えようとする。「～は難しい？」と順を追って尋ねると、「できます」や「難しい」と答えてはっきり意思表示するので理由がわかる場合が多い。
- ・ 理由に応じた解消のための手立てを組み支援をすることで、学習を始めることができる。軌道に乗ると学習が進み、内容の定着を図ることができる。学習に対する意欲が旺盛で、理解力や集中力がある。
- ・ 平仮名、片仮名の読み書きができる。昨年度から1年生の漢字の学習を続けており、読みが完成し、書きについても8割程度習得が進んでいる。
- ・ 記憶力が優れている。平仮名、片仮名の習得の際も、掲示物などの目からの情報でほぼ記憶しており、指導によって容易に定着させることができる。アルファベットにも興味をもち、短期間で読むことができるようになった。
- ・ 空間認知力が優れている。学校の教室配置を立体的に捉えて正確に記憶し、絵で表すことができる。複雑な立体パズルや、立体図形の点結びが得意である。
- ・ 算数の理解や習得も速い方で、意欲的に取り組むことができる。

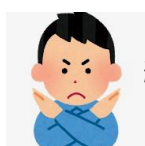
《困難の様子と行動の背景》

【学習に困難を示した時の様子】



できない！
むずかしい！
あとにする！

行動の背景



見通しがもてない
経験やこだわりから来る苦手感
好きなこと優先…だから指示に従うことはいや

【学習がスムーズに進む時の様子】



一人でできるよ！
ばくすごいね！
もっとやろうね！

行動の背景



できる見通し
自信
楽しさ…でも次の活動に移れない

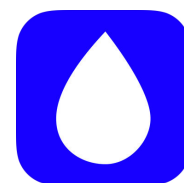
2.活動の具体的内容

○安心して学習に向かうことができるようにする。

時間や苦手教科に対する抵抗感を和らげる→「DropTalk」のスケジュールを活用

- ・ 苦手感の強い国語を2時間目にし、得意とする算数の学習からスタートする。
- ・ 国語の時間を分割して表示する。前半を得意とする書く活動を入れた「がんばりタイム」。後半に大好きなタブレット学習を入れた「わくわくタイム」と名付ける。シンボルと画像をつけて、端的に理解できるようにする。

楽しい学習が含まれているということで、意欲の喚起と共に見通しをもつようにする。



DropTalk

・ 翌日の学習の見通しをもたせるために→「スケジュール確認」の実践

- ①連絡帳で翌日の学習について確認する。予定をカレンダー機能を使って記録し、確認する活動を日常的に行うことで予定への意識を高めるようにする。
- ②DropTalkのスケジュール機能を使って時間割にまとめる。翌日の学習内容や準備についてシンボルを使ってまとめるようにする。

読む活動をサポートして不安感を解消する→アプリ「タッチ&リード」の活用

- ・2文以上の文章を読む場合に読み方の手本として活用する。

「難しい」「先生が読む」と要求した場合→一度教師が読んで聞かせて、次に自分で読む
「自分で読みたい」場合→「タッチ&リード」で手本を聞いて、次に自分で読む



タッチ&リード

見通しをもって活動を完結させ、移行の抵抗感を解消する→アプリ「絵カードタイマー」の活用

・強制的に次の活動を促す方法ではなく、活動を最後まで完結させたいという特性を生かすようにする。事前の学習活動の時間が一目で分かり、思う存分取り組めるように、タイマーアプリ「絵カードタイマー」を活用する。残り時間が色でわかるので、見通しをもつことが期待できる。内容を示す絵カードの部分には、実際にYさんが学習する画像を貼り付けて一目で活動がわかるようにした。上記の「DropTalk」にも同様な機能があるので通常はそちらを使うが、「絵カードタイマー」は学習に時間がかかる場合や次の活動に抵抗があると予測された場合に、補助的に活用する。



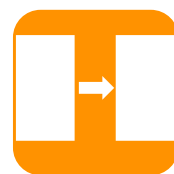
絵カードタイマー

○言語と表現を増やしてコミュニケーションや学習を円滑にする。

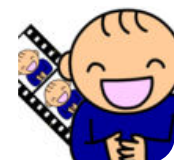
画像をもとに文章表現を促すために→「はじめ つぎは」「まねるんです」の活用

・主語、述語だけの2語文中心の表現からの脱却を目的に「はじめ、つぎは」のアプリを活用した。教師が2枚の連続する画像を本児に見せて、何をしているかを質問する。使用する画像は変化や関係性の説明を促すように、表現しやすいものや、実際に本児が体験した内容にする。

・「まねるんです」は、動画にタイトルをつけて撮りためておくのに便利なアプリで先行学習に多く活用している。動画を見ながら話すことで、動作や様子を言語化し表現を増やすようにする。



はじめ つぎは



まねるんです

伝わる喜びと双方向の豊かな会話を促すために→写真・「wivia」を活用（「出張ギャラリートーク」の実践）

- ・得意とする絵をタブレットで撮影し、スライドショーを作成する。
- ・身近な人（学級の友達や交流学級の友達など）に紹介し、絵の説明をする。

友達と画像を一緒に見ながら、説明したり、質問に答えたりする。あえて大画面での発表会形式にせず、タブレットの画像をきっかけにした自然な双方向の会話を促すようにする。

- ・同じ教材で交流学习をする際に、「wivia」を活用しての学習を交流する。

本児も含め、交流学級全員の作品をタブレットで撮影し、「wivia」で大画面に投影する。

- ①導入や意欲づけ、予備学習で活用する。
- ②完成した作品の交流や学習のまとめの発表会で活用する。



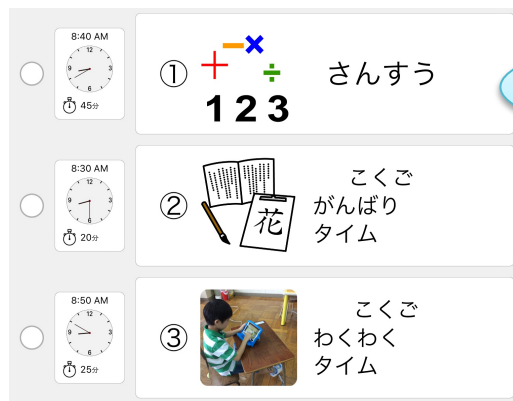
写真



wivia Presenter

○安心して学習に向かうことについて

「DropTalk」のスケジュールアプリを使った実践



DropTalk のスケジュール画面



- ・「DropTalk」のスケジュール画面を見て、苦手と思っていた教科の中にも『わくわくタイム』に自分ができる楽しい学習があることがわかると、苦手な内容が含まれていても拒否しないで活動に移行することができた。それに伴って、教室の予定黒板を消すなどの朝の不機嫌な行動も徐々に減っていった。
- ・ 6月下旬には、補助的にマグネットシートの「学習の順序」で時間割や時間内の活動の流れを示すだけで抵抗を示すことはなくなった。「算数が1、国語が2だよ。」と言って、他の子どもが国語に取り組んでいても、好きな算数から取り組み始めた。
- ・ 国語の学習は、Yさんが好きな漢字の学習から始めると喜んで取り組んだ。音読や読み取り問題になると「難しい」「やめようね」と言うが、教師の助けを借りて取り組むことができた。
- ・ スケジュールの確認に慣れてきたので、10月からは自分で時間割にまとめる取り組みをした。翌日の時間割のキャンバスを作成することができるようになり、シンボルを自分なりに工夫する様子も見られた。

「タッチ&リード」の読み上げアプリを使った実践

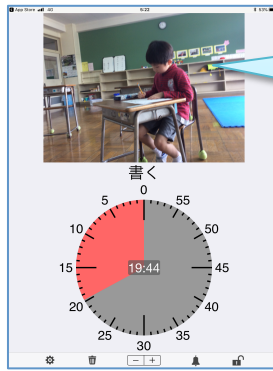
- ・ 家庭でも音読の働きかけを繰り返し行っていることから、自力で音読する力もついてきている。
しかし、プリントの問題を読んで理解する様子を観察すると、一目して正しく理解する事が殆どだが、2文以上になると見落としすることもある。「問題を読んでみましょう」と促すと、拾い読みではないが、ゆっくりとした読みになっている。師範読みしようとする、「先生 読まないで」と拒否する。読むのは面倒だけれど自分の力で読みたいという気持ちもあるようだ。
- ・ 2文以上の問題で「タッチ&リード」を使ってみることにした。機械特有の平板な読み上げには「変だねえ」という反応だったが、何度も喜んで試していた。先生の手を借りずに読めるのが気に入ったようだ。明らかに誤読であると本人が気づいた場合には、「～は変だよねえ。〇〇だよ。」と読みを訂正してタブレットに教えてあげるように話しかけていた。
- ・ 読みに自信がないと本人が感じた場合は「タッチ&リード」を使用し、2文程度でも読めると思ったものは、小さな声で音読する様子も見られるようになった。必要に応じて使い分けているようである。



「絵カードタイマー」を使った実践

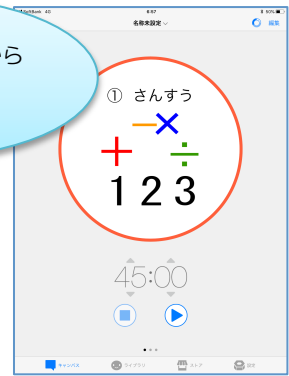
- 算数で時計の学習をしたことをしっかり覚えており、「絵カードタイマー」が残り時間を色で表していることを感覚的に理解した様子であった。

電池式のタイマーを使用した場合には、音によって強制的に終了を告げられることに抵抗を示していた。しかし、このアプリ



「絵カードタイマー」の画面

残り時間がわかるから最後までできそう！



DropTalk のタイマー機能

りのタイマーは、自分で残り時間が視覚的に確かめられるので見通しをもつことができたようである。

- 主に時間がかかる書く学習の時に「絵カードタイマー」を活用した。
- 色で示された残り時間の形を見て、時計の学習で学んだ内容を想起して「あと 5 分ケーキだ」「まだ ケーキ大きいね」とつぶやきながら最後まで学習を進めることができた。時間が間に合わないケースもあったが、「明日にしようね」と自分から納得することも何度かあった。この経験を経てからは、前の活動にこだわって次の活動に影響が及ぶことはほとんどなくなった。

○言語と表現を増やしてコミュニケーションや学習を円滑にする。

「はじめ つぎは」を使った実践



単語表現から文章表現へのきっかけ作りとして

「はじめ つぎは」のアプリを活用した。

2 枚の連続した画像をもとに会話を促すと、以下の会話に示した通り、導入前は 2 語文だったものが、3 語以上の文

になっている。2 枚の連続した動きの画像を見ながら話すことにより、順を追って変化する様子を「何がどうした」で完結せずに、「こうしたら、次にこうなった。」という動作や状況の連続性に目を向けて説明しようとする様子が見られた。

導入前の会話

「〇〇さん。(自分の名前) 掃除しようね。」
「トイレです。」
「〇〇やったけね。」
「〇〇すごいね。」

「誰がどうした」などの 2 語文にとどまっている。

アプリ活用後の会話

「バケツでお水をくみます。ブラシにちょっとつけてね、ゴシゴシします。」
「下の方の丸いのもね、ゴシゴシしたよ。あとね、お水できれいにするんだよ。」
「△△さん（お掃除を教えてくれた）は 5 年生ですか。いっしょにおそうじしたよ。」
「ピカピカになったから、〇〇さんえらいですか？」

作業の詳しい手順や、状況の説明をしており、3 語以上の文になっている。

やってみたかったトイレ掃除の手順を説明



「まねるんです」を使った実践



・動作や様子を言語化し表現を増やすために「まねるんです」のアプリを活用した。
動画を見ながら話すので、動作や様子を表す言葉を増やすことができた。

好きなものを貼り絵にする動画を説明

「いっぱい作ったっけねえ。」 「ちっちゃいよ～」
「かわいい冷蔵庫だよ。」 「のりで貼ったねえ。」
「これはね、掃除機だよ。」 「トイレはね、最新式」



「いっぱい」「ちっちゃい」「かわいい」など様子を表す言葉を多用している。

校内マラソン大会の先行学習で動画を説明

「いっぱい走ってるね。」 「〇〇さんが追い越した。」 「すごいね。」
「〇〇さん。カッコいい。」 「ぼくも走るよ。」
「ぼくも追い越すからね。」 「速く走ろうね。」



・マラソン大会の先行学習で見た動画について話す活動では、参加する意欲が高まっていく気持ちを多様な表現で話すことができた。

写真・「twivia」を活用した「出張ギャラリートーク」を使った実践

【写真の活用】

伝わる喜びと双方向の豊かな会話を促すために「出張ギャラリートーク」の実践を行った。得意とする造形作品を画像に保存して交流学級の友達に紹介する活動では、「見て見て、洗濯機だよ。すごいでしょ。」と物怖じせず積極的に自分の絵や作品を説明していた。それに対して交流学級の友達が「これYさんが描いたの？すごく上手。」「びっくりした。」という反応に終始嬉しそうにしていた。交流の度に周りの動きが気になって「だめよ。」「～はやめなさい。」という否定的で一方的な発言が多かったYさん。タブレットに入った自慢のギャラリーを囲んで自然な会話と双方向のコミュニケーションを実現することができた。



3階建ての
おうちだよ。



見て見て、洗濯機だ
よ。すごいでしょ。

見て見て！こうやる
と面白いよ。Aさん。
やってみてごらん。



この活動をきっかけに、支援学級の1年生に自分の作品の説明をしたり、作り方を教えてあげたりする様子が見られるようになった。

1年生に教える様子

【「wivia」の活用】

ギャラリートークの実践を進めていた給食時間に、交流学級に掲示してあった絵入りの短作文を見て、「やってみたい」と意欲を示した。本児が自らタブレットで気に入った作品を撮影し、「wivia」というWi-Fi投影機器のアプリを活用して支援学級の電子黒板に映した。これまで作文を書く活動を「難しいからできない。」と拒否してきたが、交流学級の友達の商品を見て参考にし、初めての作文を書くことができた。

交流学習は、これまで給食時や学校行事などごく限られた範囲にとどまっていた。間接的ではあるが、「wivia」の活用で交流のきっかけができたのは、思わぬ収穫だった。



ぼくも作文
が書けるよ。

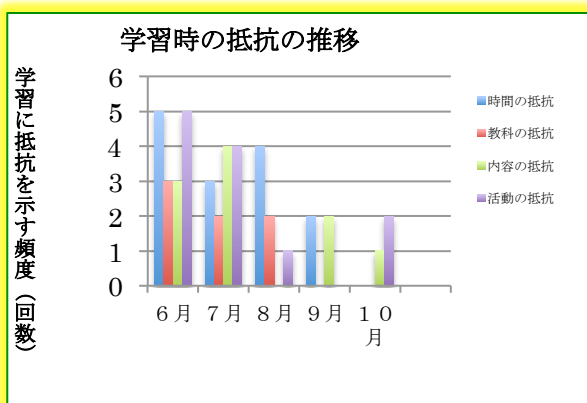
交流学級の作品を参考に作文を書く様子

【報告者の気づきとエビデンス】

①スケジュールアプリの活用により見通しをもって学習できるようになったのではないかな。

◇対象児の学習時の変化

- ・以下の「学習時の抵抗の推移」のグラフより、9月頃から、時間、教科や活動への移行に対する抵抗を示す回数が減少し、改善が見られたことが分かる。
- ・スケジュールアプリで予定を確認すると、学習の中身や順序が分かり安心して時間割に沿った学習ができるようになったと考えられる。
- ・この活動をきっかけにして、家庭でも予定変更への対応が可能になった。



自分から「今日は～ですか？」と予定を確認するようになりました◎急な変更にも対応できるようになって驚いています。障害の特性による壁を一つ乗り越えたんですね！

保護者からの連絡帳より

◇考察

「DropTalk」の活動に取り組んでからは教科の順番に対するこだわりがほとんど見られなくなった。その要因として次のようなことが考えられる。

- ①時間割を自分で作成する過程で内容が確認できる。
- ②シンボルでイメージ化することで不安が軽減される。
- ③1時間の活動を納得した上で次の時間割を組み立てる。

②読み上げアプリの活用により読む学習に抵抗なく取り組むようになったのではないかな。

◇対象児の学習時の変化

- ・読みに自信がないと本人が感じた場合は「タッチ&リード」を使用し、2文程度でも読めると思ったものは、自ら音読する様子も見られるようになった。
- ・アプリの誤読に、「～は変だよねえ。〇〇だよ。」と読みを訂正してタブレットに教えてあげるように話しかける場面も見られた。

国語の勉強に自信が持てるようになったのもあってか言葉がどんどん溢れて、会話が高度になっています！「え！？」と驚くように返しがきて、メモしていないと忘れるくらい喋ることが面白く、その成長ぶりに驚いています。

保護者からの連絡帳より

◇考察

- ・先生の手を借りずに読みたいという願いをもっている本児にとって、「タッチ&リード」の支援は有効であった。
- ・アプリをきっかけとして、自分の力で読もうとする意欲が向上したと考えられる。

③画像の活用により単語から様子や気持ちを含んだ文章表現ができるようになってきたのではないかな。

◇対象児の学習時の変化

- ・取り組みの前は2語文の表現が中心だったが、アプリの導入をきっかけに状況の説明や、気持ちの表現など3語文以上の豊かな表現が見られるようになった。

◇考察

- ・2枚の変化する画像や動画をもとにして話す経験から、様子を説明する言葉や話し方を身につけたと考えられる。
- ・得意なことを発信する「ギャラリートーク」の活動から相手意識が生まれ、一方的な発語から、教師とのやりとり、交流学級の友達、家族と双方向の会話が増えたと考えられる。連絡帳からは、話す内容の豊かさについても多様性が出てきたことがうかがえる。

【今後の課題】

○コミュニケーションが豊かになる活動の実践

ギャラリートークで広がったコミュニケーションを他の教科や領域でも行っていく。
支援学級と交流学級のそれぞれの良さを生かしたコミュニケーションの場を広げる。

○安心して学習に向かうことができるようにする活動の実践

これまでの取り組みでは、学習の中に苦手な内容が含まれていても抵抗を示すことがなくなってきた。
そこで、さらに翌日の学習を確認することで、時間割や一日の活動に見通しをもつことを進めていきたいと考えている。